

1 はじめに

複式学級では、児童自身の手で学習を進められる指導の工夫が必要である。そこで、中学年算数科におけるガイド学習（児童の代表が、教師の立てた進行計画に沿って学習を進める形態）の例として、第3学年「たし算とひき算の筆算」第4学年「式と計算の順じょ」を紹介する。また、児童が楽しみながら学習できる工夫について、「愛媛学びの森学習支援サイト」の活用例も紹介する。

2 実践例

下のようなタイムテーブルを作成し、一人一枚ずつの小さいものや黒板提示用の大きいものなど学級の実態に合わせて印刷する。

3年生用

4年生用

〇月〇日 当番名

- | | |
|-----|---------------------------|
| 25 | 1、学習の仕方を聞きます。 |
| 30 | 2、学習課題を書きます。 |
| 35 | 3、 $5678+1234$ をして話し合います。 |
| 40 | 4、 $8912-7654$ をします。 |
| 45 | 5、話し合います。 |
| 50 | 6、〇〇ページの③をします。 |
| 55 | 7、プリントをします。 |
| 12時 | 8、気づいたことを発表します。 |
| 5 | 9、プリントのつづきをします。 |
| ① | 学習帳〇ページまで |
| ② | プリント |

〇月〇日 当番名

- | | |
|-----|---------------------|
| 25 | 1、プリントをします。 |
| 30 | 2、話し合います。 |
| 35 | 3、学習の仕方を聞きます。 |
| 40 | 4、学習課題を書いてプリントをします。 |
| 45 | |
| 50 | 5、話し合います。 |
| 55 | |
| 12時 | 6、〇〇ページの③をします。 |

話し合い方の例

- 発表は当番の次の出席番号の児童から
- ノートをOHCで提示
- 発表者は、話を時々区切り、よいかどうか確認
- 発表が終わったら、同じ考えの人は誰か聞き、その人のノートをOHCで写して間違いないかどうかみんなで確認
- 考えが違う人の中で、次の出席番号の人が発表
- 2～5を繰り返す

時刻を表している。学級の実態に応じ、タイマーを使用するなら経過時間や残り時間を記入

愛媛学びの森学習支援サイト「学習プリント（算数・数学）」を考えてみましょうから「ふしぎな3087」をヒントに右のワークシートを作成

名前()
たし算とひき算の筆算 (P)

反たいにしてひき算しよう！

問題1
下のように、千の位から1ずつ小さくなる4けたの数を1つ決めます。その数から、その数を反たいにならべた数を引きます。答えは、どの数から始めたときに一番大きくなるでしょうか？
(例)
$$\begin{array}{r} 4321 \\ -1234 \\ \hline \end{array}$$

問題2
下のように、千の位から2ずつ小さくなる4けたの数を1つ決めます。その数から、その数を反たいにならべた数を引きます。答えは、どの数から始めたときに一番大きくなるでしょうか？
(例)
$$\begin{array}{r} 7531 \\ -1357 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 8642 \\ -2468 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 9753 \\ -3579 \\ \hline \end{array}$$

問題3
問題1と同じ事を5けたの数ですると、答えはどの数から始めたときに一番大きくなるでしょうか？
(例)
$$\begin{array}{r} 54321 \\ -12345 \\ \hline \end{array}$$

何かおもしろいことはおこりましたか？